

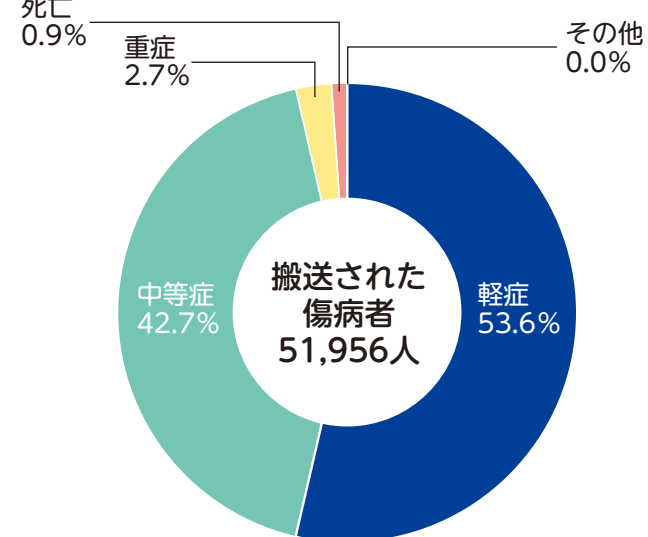
助かる命を救うために 救急車の 適正利用を

＊救急車はどのくらい出動している？

救急統計によると2019年の救急出動件数は、60,084件でした。これは、1日平均164.6件、8.7分に1回の割合で出動していることになります。

半数以上が軽症者

搬送された方の傷病程度は、軽症が最も多く、全体の53.6%を占めています。



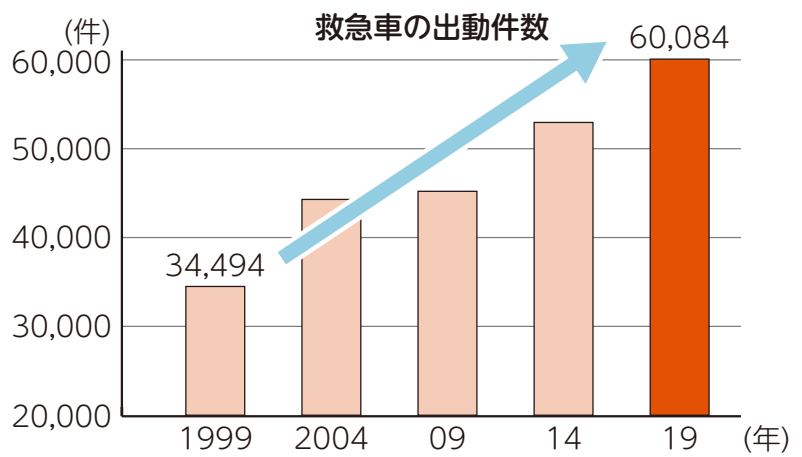
軽症＝入院を必要としないもの
中等症＝3週間未満の入院を必要とするもの
重症＝3週間以上の入院を必要とするもの

市では、突然の重い病気やひどいけがをした人に応急手当を行い、適切な医療機関に迅速に搬送するため、救急車を26台配置し、24時間体制で対応しています。しかし、搬送された方の半数以上を軽症者が占めていることなどにより、救急車の現場到着時間が年々遅くなっています。

緊急性のない病気や軽いけがの場合はかかりつけ医や夜間・休日診療などを利用し、判断に迷う場合は電話相談をするなど、救急車を適正に利用しましょう。図消防局救急課 ☎202-1657 図202-1659

出動件数は、20年前の約1.7倍に

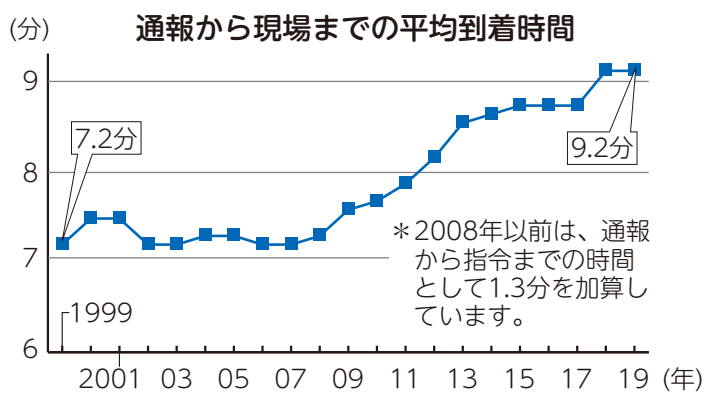
救急出動件数は、年々増加しています。2019年の60,084件は、1999年と比べて約1.7倍になっています。



救急車が現場に到着するまでの平均時間は、9.2分

救急車が119番通報を受けてから現場に到着するまでの平均時間は、9.2分です。

出動件数が増加し、また軽症者の利用も多く、年々到着が遅くなっているため、生命に危険が迫っている重篤な傷病者の命を救うことができない恐れがあります。



実際にあった 不適切な通報

緊急性のない通報

- ・日焼けが痛いから、どうにかしてほしい。
- ・ちょっと体調が悪いかもしれないから、血圧を測ってほしい。
- ・眠れない、寂しいから、話を聞いてほしい。

タクシー代わりの通報

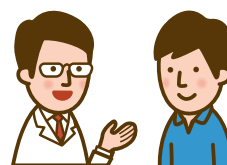
- ・〇〇病院に通院の予約をしている、入院が決まっているから、連れて行ってほしい。
- ・疲れた、酔っ払ったから、家に連れて行ってほしい、救急車の中で休ませてほしい。

＊救急車を本当に必要な人が利用できるために、私たちができること

かかりつけ医を持つ

私たちの身近にいて、病歴や体質のほか、家族の過去の病気などをよく知る、かかりつけ医を持つことが大切です。

特に、子どもや高齢者のいる家庭では、かかりつけ医を持つと安心です。



できるだけ昼間の診療時間内に受診する

会社を休まなくて済む、日中より空いてそうなど、自己都合により救急外来を受診するのはやめましょう。

救急外来は、限られた医療スタッフで運営しているため、詳しい検査などを受けられないことがあります。より充実した診療を受けるために、昼間の診療時間にかかりつけ医などを受診しましょう。

緊急時、症状が軽い場合は、夜間・休日の応急診療へ

夜間や休日に急な病気になった人のために、夜間応急診療（夜急診）や休日救急診療所などの体制を整備しています。なお、処方薬は原則として1日分だけです。診療科目など詳しくは、[5面](#)をご覧ください。

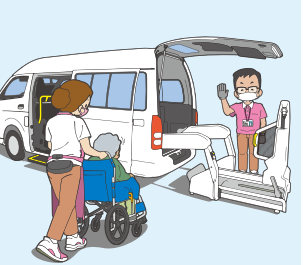


救急車ではなく、自家用車やタクシーなどを使う

緊急性のない病気やけがは、自家用車やタクシーなどを利用しましょう。

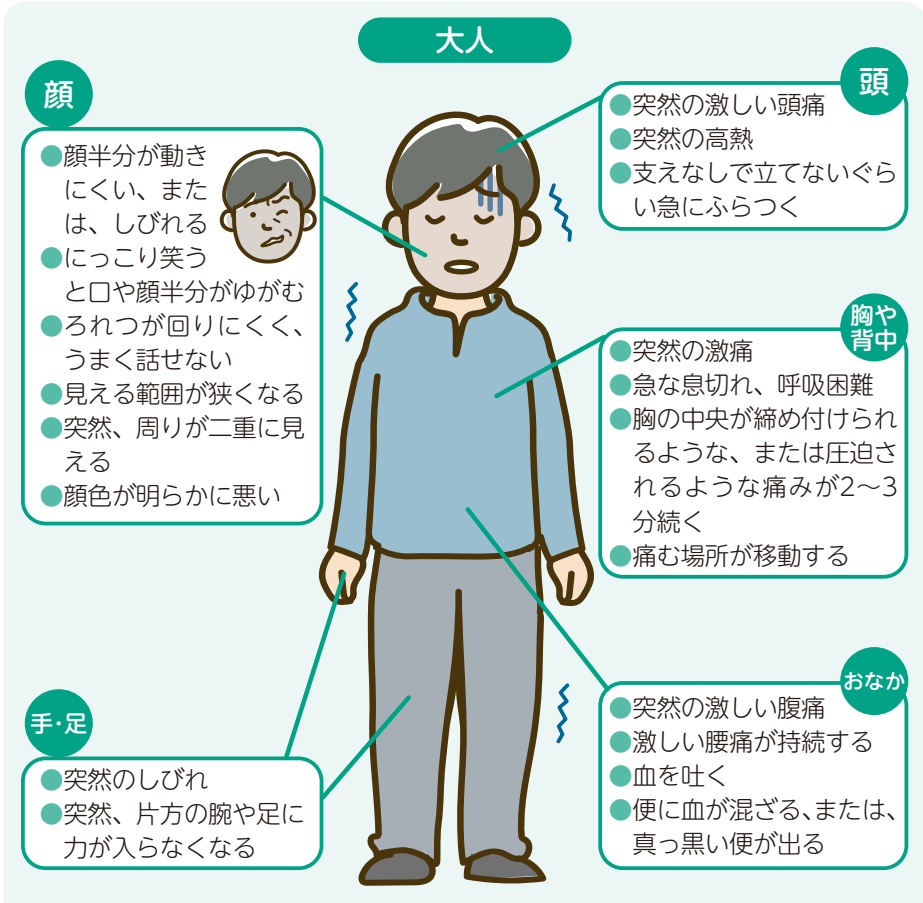
自家用車などを使えない方へ

市では、乗務員や車両資器材などの一定の搬送基準を満たした事業者を患者等搬送事業者として認定しています。事業者は、ねたきりの方や身体障害者などをストレッチャーや車椅子を使って病院などへ搬送します。事業者など詳しくは、[千葉市 患者等搬送](#)

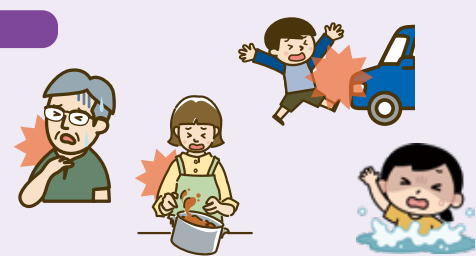


＊こんな症状のときは、ためらわず119番を！

このような場合は、重大な病気やけがの可能性があります。119番通報し、救急車を要請してください。



- 大人・子ども共通
- ・意識がない、または、おかしい
 - ・けいれんが止まらない
 - ・物を喉に詰まらせて呼吸が苦しい
 - ・大量の出血を伴うけが
 - ・広範囲のやけど
 - ・交通事故で強い衝撃を受けた
 - ・冷や汗を伴うような強い吐き気
 - ・溺れた など



このほかにも、すぐに119番通報が必要な場合があります。詳しくは、[119番通報 症状](#)

救急車を呼ぶか迷ったときは…

救急安心電話相談・こども急病電話相談

すぐに医療機関を受診した方が良いか、救急車を呼ぶべきか迷ったときに、看護師や医師、小児科医のアドバイスを受けることができます。相談番号や相談日時は[5面](#)をご覧ください。

全国版救急受診アプリ（Q助（きゅーすけ））

該当する症状や症候を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が表示されます。その後、医療機関や受診手段の検索を行うことができます。詳しくは、[Q助](#)

救急隊の お仕事拝見！ 救急搬送の現場

1 出動指令

出動指令が流れると、感染防止衣を着て、救急車に乗り込みます。

2 出動

カーナビで現場の場所を確認してから出動します。

3 患者の観察

現場に到着すると、観察資器材を持って患者の元に駆け付け、患者を観察します。

4 患者を救急車に運ぶ

観察をした後、患者を救急車に運びます。

5 受け入れ先の病院を決め、出発

病院に受け入れの問い合わせをします。病院が決まったら、病院に向かいます。

6 患者を医師に引き継ぎ、帰署

病院で患者を医師に引き継いだ後、車内と資器材をアルコールなどで消毒します。その後、消防署に引き上げますが、途中で次の出動することもあります。